

学科課程カリキュラム 及び 授業計画

(教職教育課程科目)

2011年度
(平成23年度)

第一工業大学

7 教職教育課程科目

		凡例 ☆：教職必修 無印：教職選択（但し、教科科目は適用外） ②：集中講義 *：休講																				
科目区分	科目番号	授業科目	科目単位	週授業時間数								区分最低修得単位		教職免許					備考			
				1年		2年		3年		4年		中学	高校	中学校		高校						
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			技術	数学	工業	数学	情報				
教職に関する科目	6511	教師論	2	2							2	2	☆	☆	☆	☆	☆					
	6512	教育原理 I	2		2						6	6	☆	☆	☆	☆	☆		教育の理念並びに歴史及び思想を含む。			
	6513	教育原理 II	2		2					☆			☆	☆	☆	☆	☆	☆		社会制度的又は経営学的事項を含む。		
	6514	教育心理学	2		2					☆			☆	☆	☆	☆	☆	☆		心身の発達及び学習の過程を含む。		
	第四欄	6515	教育課程論	2		2					1 2	6	☆	☆	☆	☆	☆		特別活動の指導法を含む。			
		6516	数学科教育法 I	2			2						☆		☆					教育の方法及び技術を含む。		
		6517	数学科教育法 II	2				2						☆		☆						
		6518	数学科教育法 III	(2)					2													
		6551	数学科教育法 IV	(2)					2													
		6519	技術科教育法 I	2			2							☆								
		6520	技術科教育法 II	2				2						☆								
		6521	技術科教育法 III	(2)					2													
		6552	技術科教育法 IV	(2)					2													
		6522	工業科教育法 I	2					2							☆					教育の方法及び技術を含む。	
		6523	工業科教育法 II	2					2							☆						
		6541	情報科教育法 I	2			2												☆		教育の方法及び技術を含む。	
	6542	情報科教育法 II	2				2									☆						
	6524	道徳教育	2			2							☆	☆								
	6525	教科外活動論	2				2						☆	☆	☆	☆	☆					
	6526	教育工学	2				2						☆	☆	☆	☆	☆					
四欄	6527	生徒指導論	2				2			4	4	☆	☆	☆	☆	☆	☆		進路指導の理論及び方法を含む。			
	6528	教育相談	2				2					☆	☆	☆	☆	☆	☆					
第五欄	6544	事前・事後指導	1					1		5	3	☆	☆	☆	☆	☆	☆					
	6545	教育実習 I	2					②				☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆				
	6546	教育実習 II	2					②				☆	☆									
六	6543	教職総合演習	2			2				2	2	☆	☆	☆	☆	☆						
計										3 1	2 3											
教科に関する科目	6641	木材加工(含観・実習)	1						2	中学 技術	各科目 区分毎 1単位 以上 ※1	☆						機械システム工学科以外 情報電子システム工学科以外				
	6642	金属加工(含観・実習)	1				2		☆													
	6643	機械(含実習)	1			②			☆													
	6644	電気(含実習)	1			2			☆													
	6645	栽培(含実習)	1				2		☆													
	6646	情報とコンピュータ(含実習)	3		2	2			☆													
	計											2 0										
	6628	職業指導	2					2		高 工	2 ※1			☆								
	計										2 0											
		6661	代数学	2		2					中学 数学	各科目 区分毎 1単位 以上 ※1	☆			☆						
		6662	幾何学	2		2							☆			☆						
		6663	解析学	2		2							☆			☆						
		6664	確率論・統計学	2		2							☆			☆						
		6638	コンピュータ	2				2					☆			☆						
	計									2 0	2 0											
	6651	情報化社会	2		2					高校 情報	各科目 区分毎 1単位 以上 ※1							☆				
		(コンピュータと情報処理)																				
		(情報システム)																				
		(情報通信ネットワーク)																				
		(マルチメディア表現・技術)																				
6652	情報と職業	2					2										☆					
計										2 0												
教職 又は 教科 科目	6711	介護福祉概説	2		2					中 学	2 ※1	高 校	0 ※1	☆	☆				介護等体験事前指導を含む。			
	計									8	1 6											
教 職 科 目 計			73										46	53	25	43	27					

※1 本教職教育課程科目のほかに、各学科の指定された専門科目の中から選択し修得する。
(参照：「教職教育履修要領」)

※2 高校工業の「教職に関する科目」は、「教科に関する科目」で振り替えることができる。(参照：同上)

教科番号：6511	授業科目：教師論 (Ethics for Teachers)	
中学校教員の免許状取得のための選択科目		
(全) 学科 (1) 年 (2) 単位 担当者： 山崎 英則		
科 目	教職に関する科目 (教育の基礎理論に関する科目)	
各科目に含めることが必要な事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容 (研修, 服務及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種の機会の提供等 	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>教育は「人なり」と言われるように、人を育てる教師の存在は、何時の時代にあっても教育を受ける者にとっては重要な存在である。</p> <p>そこで、教員を志す学生が、教員の職責の大きさを認識し、資質の向上を図り、使命感等を確立して教育的情熱をもって教員となるよう、講座全体を通じて教育指導を行う。</p>		
<p>【授業の概要】</p> <p>教職の意義や役割、教師の歴史や教師像、教員の職務内容、進路指導等について学び、教員としての資質能力を高めるとともに、教職に対する愛着や誇り、教員の使命感や責任感、倫理観等について理解し、考察する。</p>		
<p>【授業要旨】</p>		
回数	題 目	授 業 内 容
1	教職の意義と役割	人間形成における教育の必要性、教職の意義や教員の役割
2	教師の歴史と教師像	教師の歴史や教師像の歴史的変遷
3	教員の資質能力	教員の基本的資質能力や教育者倫理、教員の人間性や使命感
4	教員の資質能力と研修	教員の資質能力の向上と研修の重要性
5	教員の職務内容	教員の任用や服務、教員の職務内容と責任、分限や懲戒
6	教員の本質と使命感	教育基本法の教育目的、教育の本質や教員の在り方
7	教育環境としての教員	教育における教員の存在や役割、教育環境としての教師像
8	生徒の心に映る教師像	生徒の認知する教師像と心理的距離、教員の権威と親和感情
9	教師の認知・生徒の認知	教員の指導に対する生徒の認識とズレ、規範順守の認識とズレ
10	教師行動と教育効果	教育指導における賞賛と叱責、教師行動と教育効果の意義
11	教師のリーダーシップ	教師のタイプ、役割関係と感情交流、教師の姿勢とモラル
12	進路指導と教育課程	進路指導と教育課程、特別活動における進路指導の在り方
13	教員と進路指導	生徒の能力発見と教師の役割、望ましい勤労観や職業観の育成
14	進路選択に資する各種機会の提供等	履修ガイダンス・進路ガイダンス、進学・就職資料の提供と活用、保護者との連携、インターンシップと求人開拓
15	教師論	今日の教員に求められる基本的な資質能力、期待される教師像
<p>【テキスト】</p> <p>『求められる教師像と教員養成』 山崎英則・西村正登編著 ミネルヴァ書房</p>		
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>『教育用語辞典』 山崎英則・片上宗二編集委員代表 ミネルヴァ書房</p>		
<p>【学生に対する評価の方法】</p> <p>授業の進度に応じたレポート提出や小テストを実施し、その結果と出席状況及び授業中の態度を加味した総合的な評価を行う。</p>		

教科番号：6512	授業科目：教育原理 I (Educational Principal I)	
(全) 学科 (2) 年 (2) 単位 担当者：今村 勇		
【授業の到達目標】		
<p>学校における教育活動は、一人ひとりの人間の成長・発達のもとより、国家・社会の発展に関わるものであり、その教育の正否は教員の資質能力に左右される。</p> <p>そこで教員を志す学生が、教育の本質と目的等を理論的に学ぶことにより、健全な教育的識見や教育信念などの教員としての資質能力を身につけて教員となるよう、講座全体を通じて教育指導を行う。</p>		
【授業の概要】		
<p>教育の本質や目的、教授の理論等を歴史的、実証的に学習するとともに、その歴史的背景を理解するために西洋教育史や日本教育史を学習する。また教育課程や学習指導要領等の学校教育の具体的内容についても学習を深め、教育の本質や目的を理解するとともに、教育の理論や教育の歴史及び思想について理解し、考察する。</p>		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	教育とは何か	「教育」意義、教育の必要性、人間の成長と遺伝・環境など
2	人間形成と教育	「教育」の概念や教育観の諸類型、意図的・計画的な教育など
3	教育の目的（1）	西洋や日本の教育目的の歴史的な変遷、教育目的の意義など
4	教育の目的（2）	現代日本の法規上の教育目的、学校種段階の教育の目的・目標など
5	教育課程の意義と編成	教育課程の意義、教育課程の類型、教育課程編成の在り方など
6	学習指導要領	学習指導要領改定の変遷と主な内容、学習指導要領の意義など
7	教授理論と学習指導論	学力とは、教授理論や教授学の成立、現代学習指導論など
8	生徒指導	戦前・戦後の生徒指導の在り方や領域、生徒指導の意義など
9	特別支援教育と同和教育	特別支援教育の意義・目的や教育課程の基準・特例、同和教育の歩みと同和教育の推進、同和对策審議会答申など
10	道徳教育	道徳観の歴史的な変遷、道徳教育の目標・内容及び指導計画など
11	生涯教育と社会教育	社会教育法と社会教育の定義、生涯教育の定義やその歴史など
12	学校の組織と経営	学校経営の基本や校務分掌、学級経営と保護者との連携など
13	西洋教育史	古代の教育、中世の教育、近代の教育、現代の教育
14	日本教育史	古代・中世の教育、近世の教育、近代の教育、現代の教育
15	まとめ	教育の理念や目的、教育の基礎理論や歴史について認識を深めたか、全体を振り返りながらまとめる。
【テキスト】		
授業中に随時資料配布		
【参考書・参考資料等】		
「教育小六法」（市川須美子 他編著 学陽書房）		
【学生に対する評価の方法】		
<p>授業の進度に応じたレポート提出や小テストを実施し、その結果と出席状況及び授業中の態度を加味した総合的な評価を行う。</p>		

教科番号：6513	授業科目：教育原理Ⅱ (Educational Principle Ⅱ)	
(全) 学科 (2) 年 (2) 単位 担当者：今村 勇		
【授業の到達目標】		
<p>教育の成果や教員の資質能力を高めるため、教員が、日本国憲法や教育基本法等の諸法規に基づいて教育が推進されていることを理解し、認識する必要がある。</p> <p>そこで教員を志す学生が、近代学校制度や学校教育に関わる諸法規等を理解し、教育の基礎理論を身につけて教員となるよう、講座全体を通じて教育指導を行う。</p>		
【授業の概要】		
<p>教育に関する社会的、制度的又は経営的事項を学習して教育制度や学校経営等を理解するとともに、教育基本法や学校教育法等の諸法規についても学習を深め、教育を法的に考察させるようにする。また、日本及び諸外国の教育改革の現状を概観する。</p>		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	近代学校制度の成立	近代公教育制度の成立、我が国の学制改革の動きなど
2	学校制度の構造と経営	学校概念、学校体系と学校構造 学校の設置・管理など
3	教育行政の在り方	教育行政の意義、我が国の教育行政の推移と今日の教育課題など
4	教育と法規（1）	日本国憲法や教育基本法と教育、教育権・学習権の保障など
5	教育と法規（2）	教育公務員特例法・地方公務員法・学校教育法施行規則等と教育
6	学校経営	学校経営の基本、校務分掌、教員の経営参加、校長・教員等の職務
7	学級経営	学級経営の計画、生徒の実態把握、保護者との連携の仕方など
8	教職と制度	教職員の種類と職務内容、教員の資格と要件など
9	教員の勤務条件	地方公務員法と勤務条件、指導力不足教員の配置換えなど
10	現代日本の学校教育（1）	学校の設置と就学の在り方、学級編制と教職員の配置など
11	現代日本の学校教育（2）	学校の法定表簿、学校保健と安全、食育と学校給食の在り方など
12	現代日本の学校教育（3）	教育の国際化、海外子女・留学生等の教育、文化交流の在り方など
13	日本の教育改革	戦後民主主義を基本とする教育改革、今日の教育改革の動向など
14	諸外国の教育改革	学校と産業との関係 生涯学習に向けての教育制度の再編成など
15	まとめ	教育制度や学校経営、教育関連諸法規など教育の基礎理論への認識を深めたか、全体を振り返りながらまとめる。
【テキスト】		
授業中に、随時資料配布		
【参考書・参考資料等】		
「教育小六法」（市川須美子 他編著 学陽書房）		
【学生に対する評価の方法】		
<p>授業の進度に応じてレポート提出や小テストを実施し、その結果と出席状況及び授業態度を加味した総合的な評価を行う。</p>		

教科番号：6514	授業科目：教育心理学 (Educational Psychology)	
教員の免許状取得のための必修科目		
(全) 学科 (2) 年 (2) 単位 担当者： 松田 君彦		
科 目	教職に関する科目 (教育の基礎理論に関する科目)	
各科目に含めることが必要な事項	・ 幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 (障害のある幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む)	
【授業の到達目標及びテーマ】 教育心理学は教育に関わる諸問題について心理学的な側面から研究し、それによって教育の効果を高めようとするものである。そのために、発達・学習のメカニズムや障害のある生徒の理解と対応、教育評価の機能、教育的支援のあり方などについて学ぶ。		
【授業の概要】 発達・適応・学習などの教育心理学に関する基礎的理論の理解を深めるとともに、教室での授業や教育評価など実際の活用法等についても分かりやすく解説する。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	教育心理学とは	教育心理学の目的と役割
2	発達のプロセス 1	発達段階の区分と特徴
3	発達のプロセス 2	いろいろな発達理論
4	学習の基礎の理解 1	行動主義的な学習理論
5	学習の基礎の理解 2	学習の基礎としての記憶、記憶のメカニズム
6	学習の動機付け	外発的動機付けと内発的動機付け
7	学級集団の心理 1	学級づくりの必要性とその実践
8	学級集団の心理 2	望ましい集団とその実践
9	学級集団の心理 3	コミュニケーションの基本的な技法
10	テストと教育評価	教育評価とは何か
11	生徒の指導と適応 1	不適応行動の理解と指導
12	生徒の指導と適応 2	問題行動の理解と指導
13	学校の人間関係	教師としての成長と教師集団のあり方
14	障害児の心理と教育	障害児の心身の特徴と指導の方法
15	まとめ・評価	学習の総括、理解度の評価
【テキスト】 教育心理学エッセンシャルズ 西村純一・井森澄江 編 ナカニシヤ出版		
【参考書・参考資料等】 新・教育心理学事典 依田 新 監修 (金子書房)		
【学生に対する評価】 試験、授業態度、その他 (リスポンスシート)		

教科番号：6515	授業科目：教育課程論 (Educational Curriculum Theory)	
(全) 学科 (2) 年 (2) 単位 担当者：今村 勇		
【授業の到達目標及びテーマ】		
<p>今日、教育改革は、「国家百年の計」として各界から次々に改革案が出されているが、教育課程の改革は、その中でも重要な課題の一つとなっている。</p> <p>そこで教員を志す学生が、教育課程の意義や編成の方法等を学習し、「学び方を学ぶ」ための教育課程編成の在り方等を身につけて教員となるよう、講座全体を通じて教育指導を行う。</p>		
【授業の概要】		
教育課程の意義や教育課程改革の歴史的展開を学ぶとともに、特別活動の指導方法等について学習を深め、教育課程編成の基本的問題及び今日の学校教育と教育課程改革との関わり等について理解し、考察する。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	教育課程の意義	「教育課程」と「カリキュラム」、教育課程の基本問題など
2	教育課程論の歴史的展開	古典主義教養主義や民衆教育の理想と現実、ヘルバルトの教育課程論など
3	現代の教育課程論	新教育運動と生活経験カリキュラム、教育内容の現代化など
4	明治初期の教育課程	明治初期の科学教育重視の教科課程、儒教主義尊重の教育課程など
5	国家主義の教育課程	国家主義的な教育と教科書観、教育現場での教育課程改革の試み等
6	戦後カリキュラム改革	「新教育」の児童中心主義、「新教育」のカリキュラム改革の意義
7	我が国の教育課程行政	国の教育課程の基準策定、教育委員会の指導、学校の教育課程編成
8	教育目的と教育課程	教育課程編成と教育目的、各学校種段階の教育課程編成の特色など
9	教育課程編成の社会的基礎	国際化と教育、情報化と教育、科学技術の発展と教育、環境問題と教育など
10	特別活動と教育課程	特別活動の意義や目的・内容、学校行事の意義・内容や指導方法
11	特別活動の指導原理	ホームルーム活動の意義、望ましい人間関係づくりの指導など
12	特別活動の指導の在り方	学級活動やホームルーム活動の指導形態、望ましい話し合い活動の指導の在り方など
13	中学校・高等学校の教育課程の構成	戦後「新教育」から今日までの学習指導要領改訂と教育課程改定、中学校・高等学校の教育課程の構成など
14	総合的学習の時間	総合的な学習の時間等の「学び方を学ぶ」教育課程編成の在り方など
15	まとめ	教育課程の意義及び編成方法、特別活動の指導法への認識を深めたか、全体を振り返りながらまとめる。
【テキスト】		
授業中に随時資料配布		
【参考書・参考資料等】		
「教育課程論」(柴田義松編著 学文社)		
【学生に対する評価の方法】		
授業の進度に応じたレポート提出や小テストを実施し、その結果や出席状況及び授業態度を加味した総合的な評価を行う。		

教科番号：6516	授業科目：数学科教育法 I (Education Mathematics Methodology I)	
(全) 学科 (3) 年 (2) 単位 担当者：前園 盛義		
【授業の到達目標】 この講義では、中学校・高等学校の数学科教育について次のことを目標とする。		
1. 目標及び内容の理解 2. カリキュラムの作成法の修得 3. 教科指導法の修得 4. 評価方法の理解		
【授業の概要】 中学校・高等学校で数学を指導するために必要としている数学の基礎を学ぶとともに、数学の教育目標、内容、指導法について、理解させる。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	指導目標の研究	指導目標の具体化
2	指導目標の変換 ①	指導内容と目標
3	指導目標の変換 ②	数学教育の現代化
4	教材の研究	数・式 取り扱いを工夫したい教材
5	同 上	関数 取り扱いを工夫したい教材
6	同 上	図形
7	同 上	代数
8	同 上	幾何
9	同 上	解析
10	教材教具の生かし方	教材・教具とは 黒板・掛け図等 OHP・TV等教育工学用具等
11	同上	教科書・補助教材等
12	具体的な指導技術	板書・話し方・要点のまとめ方・生徒の質問・ノートの取らせ方等
13	同 上	教師の受動的な働き・教室における教師の動き
14	評 価	評価の意義・指導と評価・絶対評価と相対評価
15	同 上	評価の方法 書かせて評価 話させて評価等
テキスト 数学科教育法 牧野書店		
参考書・参考資料等 配布資料		
学生に対する評価 試験・レポート		

教科番号：6517	授業科目：数学科教育法Ⅱ (Education Mathematics MethodologyⅡ)	
(航空宇宙工) 学科 (3) 年 (2) 単位 担当者：前園 盛義		
<p>【授業の到達目標】</p> <p>この講義では、中学校・高等学校の数学科教育について次のことを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目標及び内容の理解 2. カリキュラムの作成法の修得 3. 教科指導法の修得 4. 評価方法の理解 		
<p>【授業の概要】</p> <p>数学科教育法1に引き続き、各自が教育目標、内容、指導法を理解した上で学習指導案を作成し、模擬授業の実践を通して具体的な指導法をみにつける。</p>		
<p>【授業要旨】</p>		
回数	題 目	授 業 内 容
1	数学教育の現代化	現代の数学教育の発展
2	考える力を育てる	数学教育において考える力を育てる授業づくり
3	発展的な学習と補充	発展的な学習と補充的な学習として、どのような学習を行うのか
4	評価 (1)	評価の意義とその目的
5	評価 (2)	評価の方法、書かせる評価、話させて評価する方法
6	学習指導要領 (1)	中学校学習指導要領 「数学」
7	学習指導要領 (2)	高等学校学習指導要領 「数学」
8	戦後の指導法の変換	戦後の数学の指導法の移り変わり
9	学習指導法	事前の準備・導入・展開・まとめ・家庭学習への配慮
10	指導技術	板書・話し方・生徒の質問・ノートの取り方・教師の動き等
11	プレゼンテーション	プレゼンテーションの方法
12	指導案の作成 (1)	指導案作成の指導
13	指導案の作成 (2)	指導案作成の指導
14	模擬授業 (1)	各自の指導案にそって模擬授業を実施
15	模擬授業 (2)	各自の指導案にそって模擬授業を実施
<p>テキスト</p> <p>数学科教育法 牧野書店</p> <p>参考書・参考資料等</p> <p>配布資料</p> <p>学生に対する評価</p> <p>模擬授業 レポート プレゼンテーション</p>		

教科番号：6519	授業科目：技術科教育法Ⅰ (Industrial Arts MethodologyⅠ)																																																	
(全) 学科 (3) 年 (2) 単位 担当者：中菌 政彦																																																		
<p>【授業の到達目標】</p> <p>中学校における教科「技術・家庭科」の技術分野の指導ができる能力を習得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術の変遷と技術教育の関わりについて理解し説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科「技術・家庭科」の存在意義とその歴史を理解し説明できる。 ・ 教科「技術・家庭科」の技術分野の目標・内容を理解し説明できる。 <p>教科「技術・家庭科」の技術分野の題材、指導計画を理解し作成できる。</p>																																																		
<p>【授業の概要】</p> <p>中学校における教科「技術・家庭科」の目標達成の指導に必要な基礎知識・基本的な指導法を解説する。「技術・家庭科」の指導に必要な技術の歴史と発展、教育改革と技術・家庭科教育の関連を踏まえ、中学校学習指導要領の「技術・家庭」に即して、指導内容、指導方法、教育課程編成等について実践的に学習する。</p>																																																		
<p>【授業要旨】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 30%;">題 目</th> <th style="width: 60%;">授 業 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>技術の変遷と技術教育</td> <td>技術の発展と技術教育、技術と科学、技術教育、学校における技術教育</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>技術教育の役割</td> <td>教科「技術・家庭科」の存在意義、技術担当教師の役割</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>教育改革と技術教育</td> <td>学習指導要領改訂の背景、新学習指導要領における技術・家庭科教育</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>技術・家庭科の目標</td> <td>教科「技術・家庭科」の目標と内容の構成</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>技術分野の目標</td> <td>技術分野の目標、課題解決学習の学習形態</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>技術分野の内容</td> <td>「A材料と加工に関する技術」「Bエネルギー変換に関する技術」「C生物育成に関する技術」「D情報に関する技術」</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>技術分野の指導計画1</td> <td>技術分野の指導計画作成の基盤と指導計画作成の留意事項</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>技術分野の指導計画2</td> <td>技術分野の指導計画の実際</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>技術分野の題材1</td> <td>技術・家庭科教育における題材の意義、題材選定・作成の視点</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>技術分野の題材2</td> <td>技術分野の題材の実際例</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>技術・家庭科教育の変遷</td> <td>学習指導要領の改訂と技術・家庭科教育の内容の変遷</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>技術分野の学習指導</td> <td>学習指導の基本、事故防止と学習指導</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>技術分野の授業設計</td> <td>技術・家庭科の授業の構成要素、授業の設計手順</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>技術教育の発展</td> <td>技術・家庭科における発展的な学習・補足的な学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	題 目	授 業 内 容	1	技術の変遷と技術教育	技術の発展と技術教育、技術と科学、技術教育、学校における技術教育	2	技術教育の役割	教科「技術・家庭科」の存在意義、技術担当教師の役割	3	教育改革と技術教育	学習指導要領改訂の背景、新学習指導要領における技術・家庭科教育	4	技術・家庭科の目標	教科「技術・家庭科」の目標と内容の構成	5	技術分野の目標	技術分野の目標、課題解決学習の学習形態	6	技術分野の内容	「A材料と加工に関する技術」「Bエネルギー変換に関する技術」「C生物育成に関する技術」「D情報に関する技術」	7	技術分野の指導計画1	技術分野の指導計画作成の基盤と指導計画作成の留意事項	8	技術分野の指導計画2	技術分野の指導計画の実際	9	技術分野の題材1	技術・家庭科教育における題材の意義、題材選定・作成の視点	10	技術分野の題材2	技術分野の題材の実際例	11	技術・家庭科教育の変遷	学習指導要領の改訂と技術・家庭科教育の内容の変遷	12	技術分野の学習指導	学習指導の基本、事故防止と学習指導	13	技術分野の授業設計	技術・家庭科の授業の構成要素、授業の設計手順	14	技術教育の発展	技術・家庭科における発展的な学習・補足的な学習	15	まとめ	
回数	題 目	授 業 内 容																																																
1	技術の変遷と技術教育	技術の発展と技術教育、技術と科学、技術教育、学校における技術教育																																																
2	技術教育の役割	教科「技術・家庭科」の存在意義、技術担当教師の役割																																																
3	教育改革と技術教育	学習指導要領改訂の背景、新学習指導要領における技術・家庭科教育																																																
4	技術・家庭科の目標	教科「技術・家庭科」の目標と内容の構成																																																
5	技術分野の目標	技術分野の目標、課題解決学習の学習形態																																																
6	技術分野の内容	「A材料と加工に関する技術」「Bエネルギー変換に関する技術」「C生物育成に関する技術」「D情報に関する技術」																																																
7	技術分野の指導計画1	技術分野の指導計画作成の基盤と指導計画作成の留意事項																																																
8	技術分野の指導計画2	技術分野の指導計画の実際																																																
9	技術分野の題材1	技術・家庭科教育における題材の意義、題材選定・作成の視点																																																
10	技術分野の題材2	技術分野の題材の実際例																																																
11	技術・家庭科教育の変遷	学習指導要領の改訂と技術・家庭科教育の内容の変遷																																																
12	技術分野の学習指導	学習指導の基本、事故防止と学習指導																																																
13	技術分野の授業設計	技術・家庭科の授業の構成要素、授業の設計手順																																																
14	技術教育の発展	技術・家庭科における発展的な学習・補足的な学習																																																
15	まとめ																																																	
<p>【テキスト】</p> <p>中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 平成20年9月 文部科学省 教育図書</p>																																																		
<p>【参考書・参考資料等】 配布資料</p>																																																		
<p>【学生に対する評価の方法】</p> <p>技術分野の指導に関する基礎的な知識や指導方法の習得状況と中学校において技術分野を担当する教師としての意欲と責任感を、出席数の充足度合い、課題に対するレポートの内容と試験の結果等から総合的に判断し評価する。</p>																																																		

授業番号：6520	授業科目：技術科教育法Ⅱ (Industrial Arts Methodology Ⅱ)	
(全) 学科 (3) 年 (2) 単位		
担当者：中菌 政彦		
【授業の到達目標】		
<p>中学校における教科「技術・家庭科」の技術分野の指導ができる能力を習得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科「技術・家庭科」の技術分野の学習指導案の意義・形式について理解し作成できる。 ・ 教科「技術・家庭科」の技術分野の評価資料、学習評価について理解し説明できる。 ・ 教科「技術・家庭科」の技術分野の施設設備について理解し説明できる。 ・ 教科「技術・家庭科」の技術分野の指導ができる。 		
【授業の概要】		
<p>中学校における教科「技術・家庭科」の目標達成の指導に必要な基礎知識・基本的な指導法を「技術科教育法Ⅰ」に引き続き解説する。</p> <p>内容は、学習指導の中心となる学習指導案を実際に作成し、学習指導と密接な関係のある学習評価について実践的な学習を行う。さらに、技術分野の指導の推進に係る教材・教具、教育機器、施設・設備等についても解説する。</p> <p>まとめとして、技術分野の担当教師としての使命や技術分野の課題についても触れる。</p>		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	学習指導案の意義	学習指導案の意義・機能、学習指導案作成の手順
2	学習指導案の形式	学習指導案の形式と特性、学習指導案の書き方
3	学習指導案の作成	技術・家庭科における学習指導案作成上の留意点、目標分析 フローチャートを活用した学習指導案の作成
4	学習指導案の検討	作成した学習指導案の点検と評価
5	学習評価の理論	学習評価の意義・目的、学習評価の方法、指導要録
6	技術・家庭科の学習評価	技術分野の学習評価、観点別学習状況の評価
7	評価資料の作成	技術分野の観点毎の評価資料の作成
8	教材・教具	教材・教具の種類、自作教具の特性、技術分野の教材・教具の自作
9	教育機器	教育機器と情報提供、技術分野の指導における教育機器の活用
10	技術分野の施設・設備	技術分野の施設・設備の実際、施設・設備の安全管理
11	技術教育の浸透	総合的な学習の時間との関連、安全に留意した指導
12	技術分野の指導の実際1	模擬授業の展開
13	技術分野の指導の実際2	模擬授業の展開
14	技術・家庭科教育の課題	技術分野担当の教師の姿、技術教育の今後の展望
15	まとめ	
【テキスト】		
中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 平成20年9月 文部科学省 教育図書		
【参考書・参考資料等】 配布資料		
【学生に対する評価の方法】		
<p>技術分野の指導に関する基礎的な知識や指導方法の習得状況、実践力と中学校における技術分野担当教師としての意欲と責任感を、出席数の充足度合い、課題に対するレポートの内容と試験の結果等から総合的に判断し評価する。</p>		

教科番号：6522	授業科目：工業科教育法 I (Technical Education Methodology I)	
教員の免許状取得のための必修科目		
(全) 学科 (3・4) 年 (2) 単位 担当者： 今村 忠		
科 目	教職に関する科目 (教育課程及び指導法に関する科目)	
各科目に含めることが必要な事項	・工業科教育の目標及び工業科の学習指導法	
【授業の到達目標及びテーマ】		
<ul style="list-style-type: none"> ・職業教育制度・工業教育制度等の流れを理解し、工業高校の課題等について理解する。 ・法令や学習指導要領等の規定を理解し、工業科の教員としての基礎・基本を身につける。 		
【授業の概要】		
工業教員をめざす学生にとって必要な工業の分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。また、工業教育の歴史・制度等についても学習し、現在の工業高等学校教育がかかえる課題・実態について具体的に解説し、その対策・解決について考察する。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	序論(1)	工業高校の現状、専門高校・職業高校
2	教育内容(1)	教育改革の流れ(歴史)
3	教育内容(2)	後期中等教育(高校教育)・教科・学科としての工業教育
4	職業教育制度(1)	学校教育制度、職業教育制度、企業内教育
5	職業教育制度(2)	ドイツマスター制度、日本版デュアルシステム、工業高校資格取得表彰
6	工業教育史(1)	日本における工業教育史
7	工業教育史(2)	鹿児島県・九州地区の工業教育
8	工業教育史(3)	世界の工業教育
9	工業教育史(4)	工業高等学校の課題(問題点と対応)総合学科の新設
10	学習指導要領	学習指導要領の変遷と教育課程
11	教育課程(1)	教科「工業」の目標、教育課程の構成
12	教育課程(2)	教育課程の変遷
13	教育課程(3)	新学習指導要領に導入の新設科目と単位数
14	教育課程(4)	「課題研究」「実習」の目標と内容
15	まとめ	上記授業内容についての総括
【テキスト】		
工業科教育法の研究 池守 滋他共著 実教出版		
【参考書・参考資料等】		
高等学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省 創栄図書印刷		
【学生に対する評価の方法】		
講義の基礎的な知識の習得状況と出席状況、課題に対するレポート等から総合的に判断し評価する。		

教科番号：6523	授業科目：工業科教育法Ⅱ（Technical Education Methodology Ⅱ）	
教員の免許状取得のための必修科目		
（ 全 ）学科（3・4）年（2）単位 担当者： 今村 忠		
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）	
各科目に含めることが必要な事項	・工業科教育の目標及び工業科の学習指導法	
【授業の到達目標及びテーマ】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 法令や学習指導要領を踏まえ、専攻（機械科・電気科・建築科）の教育課程について理解する。 ・ 専攻（機械科・電気科・建築科）の教科について、年間学習計画案、学習指導案づくりをおこない、実践的な指導力を高める。 ・ 学校評価・職員評価の内容と動向について理解する。 		
【授業の概要】 <p>工業科教育法Ⅰに引き続き、工業教育に必要な基礎的・基本的な教育法について解説する。学生が専攻する学科の学習指導案を作成し、学習評価についても学習する。また、学校現場で取り組んでいる「開かれた学校づくり」「学校評価」についても理解を深める。</p>		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	序論(1)	教育法Ⅰの総括、教員採用試験の現況等
2	授業 学習方法	学習方法・理論
3	授業 学習指導(1)	年間指導計画案づくり
4	授業 学習指導(2)	授業実践を行うときの学習指導案づくり
5	授業 学習指導(3)	研究授業を行うときの学習指導案づくり、単元の目標を含む
6	授業 学習指導(4)	評価と評定（授業評価・学校評価）
7	学校運営(1)	校務分掌組織、職員会議
8	学校運営(2)	工業高校の進路指導、生徒指導
9	学校運営(3)	年間行事計画、PTA、諸団体
10	職業教育と教育行政	学校と教育行政機関
11	職員研修	職員研修の体系・種類、企業研修
12	工業高校の施設設備	技術革新と実習施設・設備、実験実習授業の安全教育
13	工業教育とものづくり	工業技術を支えるものづくり
14	望ましい工業教員像	これからの工業教育・教師像
15	まとめ	工業教育全般の総括
【テキスト】 <p>工業科教育法の研究 池守 滋他共著 実教出版</p>		
【参考書・参考資料等】 <p>高等学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省 創栄図書印刷</p>		
【学生に対する評価の方法】 <p>講義の基礎的な知識の習得状況と出席状況、課題に対するレポート等から総合的に判断し評価する。</p>		

教科番号： 6541	授業科目：情報科教育法 I (Instruction Method of Information Education I)	
(全) 学科 (3) 年 (2) 単位 担当者： 棚田 嘉博		
【授業の到達目標】		
1. 教科「情報」の設置の経緯と趣旨を理解する。 2. 教科「情報」の指導方法を理解する。 3. 教科「情報」の生徒の活動を体現し、指導に生かす。		
【授業の概要】		
高等学校の情報教育の目的を踏まえて、情報ネットワーク社会に適応できるよう教育指導する方法を講述する。普通教科「情報」の概要を説明し、情報活用のための実践と学習指導、情報の科学的理解と情報処理について述べる。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	情報教育	情報教育の経緯、教科「情報」の特質、教育政策
2	諸外国の情報教育	英国の情報教育教師、オーストラリアの情報教育
3	情報教育の教授モデル	学習活動モデル、情報教育指導の姿勢、学習指導計画
4	普通教科「情報」	情報活用の実践力、情報の科学的理解、社会への参画態度
5	情報 A、情報 B	情報 A, B の目標、情報 A, B の内容、情報 A, B の授業設計
6	情報 C、ネット規制	情報 C の目標、内容、授業設計、ネット規制に関する討論
7	情報活用のための実践力	メディアの活用、学習形態と学習方法
8	情報収集の学習指導	情報の収集・処理、問題解決と情報、情報の整理と管理
9	情報発信の学習指導	情報の発信・伝達の学習指導、情報の収集・発信の評価
10	情報の科学的理解	情報の科学的理解、情報科学の発展、コンピュータの仕組み
11	情報の処理	ソフトウェア、アルゴリズム、情報処理の基礎技術
12	情報通信ネットワーク	情報通信ネットワークの発展、WWW、デジタル情報
13	マルチメディア	画像処理、マルチメディア表現、情報処理と表現の評価
14	模擬授業	プレゼンテーションと評価
15	まとめ・評価	講義のまとめ、到達度試験
【テキスト】 ：情報科教育法 岡本敏雄、西野和典、香山瑞恵 編著 丸善 2005年6月		
【参考書・参考資料等】 ：なし		
【学生に対する評価】 ：試験 80% プレゼンテーション 20%		

教科番号： 6542		授業科目：情報科教育法Ⅱ (Instruction Method of Information Education Ⅱ)	
(全) 学科 (3) 年 (2) 単位 担当者： 棚田 嘉博			
【授業の到達目標】			
1. 情報社会 への健全な参画の指導法を理解する。 2. 教科「情報」の授業計画と学習指導案を理解する。 3. 模擬授業を通して実践的な指導力を身につける。			
【授業の概要】			
高等学校の情報教育の目的を踏まえて、情報ネットワーク社会に適応できるよう教育指導する方法を講述する。情報社会への参画、教科「情報」と「総合的な学習の時間」との相違、授業計画、人的・物的要件について述べる。			
【授業要旨】			
回数	題 目	授 業 内 容	
1	情報社会の仕組み	情報検索、情報の送受信、情報の信頼性、匿名性	
2	社会への健全な参画	情報倫理、利権侵害と自己責任	
3	協調的コミュニケーションの展開法	コミュニケーションの形態、コミュニケーションのツール、協調的グループ学習	
4	メディアリテラシーと情報の評価	メディアリテラシー教育、IT 機器の活用、情報の評価	
5	総合的な学習の時間	経緯、趣旨とねらい、内容	
6	教科「情報」との相違	教育課程、教育目標と内容、指導方法、評価の比較	
7	教科「情報」からの観点	実践力、科学的理解、社会参画の態度	
8	情報活用と自己表現	情報活用能力、情報創造力、自己表現力	
9	授業計画と学習指導の案	授業設計、授業計画の立案、学習指導の立案	
10	学習活動の指導方法	情報活用能力、情報創造力、自己表現力の育成	
11	教科「情報」の社会的要因	制度、施策・政策、研究開発・授業実践の動向	
12	学習基盤の整備	ハード・ソフト、LAN の導入、セキュリティ対策	
13	情報教育の人的資源	企業・大学・地域、地域との連携、家庭と学校	
14	模擬授業	プレゼンテーションと評価	
15	まとめ・評価	講義のまとめ、到達度試験	
【テキスト】：情報科教育法 岡本敏雄、西野和典、香山瑞恵 編著 丸善 2005年6月			
【参考書・参考資料等】： なし			
【学生に対する評価】：試験 80% プレゼンテーション 20%			

教科番号：6524	授業科目：道徳教育（Moral Education）		
（全）学科 （3）年 （2）単位 担当者：中藺 政彦			
【授業の到達目標】			
<p>中学校における特設「道徳」の指導ができる能力を習得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳教育の歴史，人間の成長と道徳性の発達について理解し説明できる。 ・ 道徳教育の目標，指導計画について理解し説明できる。 ・ 道徳教育と他領域との関連について理解し説明できる。 ・ 道徳の指導法，指導案について理解し実際に指導できる。 ・ 道徳教育と家庭・社会・教師との関連を理解し説明できる。 			
【授業の概要】			
<p>学校における道徳教育の目標、児童生徒の道徳性の発達の過程、道徳と教科指導・生徒指導等との関連等を解説する。さらに、児童・生徒に道徳性を育成するための指導計画や指導法について実践的に学習する。特に、資料を活用した道徳指導法の展開について実際に学習する。また、道徳教育の課題等についても明らかにする。</p>			
【授業要旨】			
回数	題 目	授 業 内 容	
1	道徳教育の概要	道徳と道徳教育、現代社会と道徳の問題、学校における道徳教育	
2	道徳教育の歴史、	明治の道徳教育、大正・昭和前期の道徳教育、戦後の道徳教育	
3	道徳性	道徳性のメカニズム、道徳的価値	
4	道徳性の発達	道徳性の特質、人間の成長と道徳性	
5	道徳教育の目標	道徳教育の内容	
6	道徳の指導計画	教育課程における位置付け、全体計画・指導計画作成の実際	
7	他領域との関係	特別活動・総合的な時間との関係、生徒指導との関係	
8	道徳教育の指導方法1	資料を活用した指導法	
9	道徳教育の指導方法2	いろいろな方法での指導法	
10	道徳の指導案	指導案の作成の実際、「心のノート」の活用	
11	道徳の指導の実際	模擬授業の実施	
12	道徳の評価	道徳教育の評価、指導要録の形式、道徳性の評価	
13	道徳教育と家庭・社会	家庭生活と道徳教育、地域社会生活と道徳教育	
14	道徳教育と教師	人間として・教育技術者として・道徳の指導者としての教師	
15	まとめ		
【テキスト】			
道徳教育の研究 新訂修正版 教師養成研究会編 学芸図書			
【参考書・参考資料等】			
<p>中学校学習指導要領解説 道徳編 平成20年9月 文部科学省 日本文教出版 配布資料</p>			
【学生に対する評価の方法】			
<p>道徳教育に関する基礎的な知識や指導方法の習得状況と中学校における「道徳」を担当する教師としての意欲と責任感を、出席数の充足度合い、課題に対するレポートの内容と試験の結果等から総合的に判断し評価する。</p>			

教科番号：6525	授業科目：教科外活動論 (Subject Outside Activity Theory)	
(全) 学科 (3) 年 (2) 単位 担当者：山崎 英則		
<p>【授業の到達目標】</p> <p>中学校における特別活動の指導ができる能力を習得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別活動の意義を理解し説明できる。 ・ 特別活動と他の教育活動の関連を理解し説明できる。 ・ 特別活動における心理学的基礎事項を理解し説明できる。 ・ 学級活動の内容を理解し説明できる。 ・ 生徒会活動の内容を理解し説明できる。 ・ クラブ活動（部活動）の内容を理解し説明できる。 ・ 学校行事の内容を理解し説明できる。 		
<p>【授業の概要】</p> <p>教育課程の一領域となっている「特別活動」について解説する。内容は「特別活動の教育的意義」「特別活動の基礎理論」「特別活動の内容と指導法」の3部で構成する。</p> <p>学校現場で開発・蓄積された指導原理や指導法を領域毎に紹介し、実践的な指導力が育成されるようにする。また、特別活動の課題等についても明らかにする。</p> <p>【授業要旨】</p>		
回数	題 目	授 業 内 容
1	特別活動の概要	特別活動の歴史の変遷、特別活動の意義・目的・内容
2	他教育活動との関連	各教科・道徳・総合的学習と生徒指導との関連
3	特別活動の心理学的基礎 1	集団活動の教育的意義、集団の構造と機能
4	特別活動の心理学的基礎 2	リーダーシップの心理
5	特別活動の心理学的基礎 3	対人認知の心理、対人行動の心理
6	特別活動における指導原理	特別活動における指導原理、望ましい人間関係の指導
7	学級活動の内容と指導 1	学級活動・ホームルーム活動の意義と内容 学級集団の機能と心理
8	学級活動の内容と指導 2	学級活動・ホームルーム活動の指導形態 望ましい話し合い活動の指導
9	生徒会活動の内容と指導 1	児童会・生徒会の組織・内容・意義
10	生徒会活動の内容と指導 2	児童会・生徒会の活動計画と運営
11	生徒会活動の指導野実際	指導案の作成と実際の指導
12	部活動の内容と指導	クラブ活動の意義と内容、部活動の意義と内容
13	学校行事の内容と指導	学校行事の意義と内容、学校行事の指導の実際
14	特別活動における評価	特別活動における評価の特性、指導要録の形式
15	まとめ	
<p>【テキスト】</p> <p>教職課程講座 6 特別活動の理論と方法 江川 玖成 三訂版 学芸図書</p>		
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成20年9月 文部科学省 ぎょうせい</p>		
<p>【学生に対する評価の方法】</p> <p>特別活動に関する基礎的な知識や指導方法の習得状況と中学校における学級活動等を担当する教師としての意欲と責任感を、出席数の充足度合い、課題に対するレポートの内容と試験の結果等から総合的に判断し評価する。</p>		

教科番号：6526	授業科目：教育学（educational technology）																																																	
(全) 学科 (3) 年 (2) 単位 担当者： 當金 一郎																																																		
<p>【授業の到達目標】</p> <p>教育学の理論を実際の授業に応用できる為の「基礎的知識」を身につけることを目標にする。特に「学習」と「教育」の違いを理解し、「工学的な概念」の基にそれらを扱えるようにしたい。また、近年盛んになってきている e-learning システムに関して、その内容の基礎的理解が行えるようにしたい。</p>																																																		
<p>【授業の概要】</p> <p>教育学の基礎概念の解説及び、それを教育実践に展開する方法論が本講義の中心課題である。特にこれまで教育学は、教育心理学上の諸理論を情報機器等のツールを用いて実践することを目標に展開されてきたが、その理論的背景と、実際の応用例について、歴史的背景等も踏まえて解説を行う。</p>																																																		
<p>【授業要旨】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>題 目</th> <th>授 業 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教育学とは何か</td> <td>教育学の定義、「教育」と「学習」の関係、教育学の背景</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教育学の分野</td> <td>コンピュータによる学習支援、教育支援、成績処理、教育評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>行動主義による学習①</td> <td>行動主義心理学の歴史、パプロフ、ワトソン、ソーンダイク</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>行動主義による学習②</td> <td>バラス・スキナーの「猫の問題箱」、プログラム学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>目標分析の実際</td> <td>目標分析の概念と必要性、スモールステップ、目標分析の実際例</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>認知主義による学習①</td> <td>認知主義心理学の概念と歴史、「分かる」とメンタルモデル</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>認知主義による学習②</td> <td>知識構造と体験、概念と実際の関係、認知構造</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>シミュレーション</td> <td>物理概念とは、擬似体験の必要性、学習プロセス、マルチメディア</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>状況論的学習理論</td> <td>暗黙知と形式知の定義、何故暗黙知は生ずるか、状況の変動</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>授業と教材の設計</td> <td>インストラクションデザインの概念、教材の役割と設計</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>コンピュータによる学習支援①</td> <td>e-learning ツール Moodle の概要、教材の作成とアップロード</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>コンピュータによる学習支援②</td> <td>プログラム学習フローチャート、チュートリアルシステム</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>コンピュータによる教育支援①</td> <td>多岐選択式によるテスト問題の作成法、テスト解答の集計と分析</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>コンピュータによる教育支援②</td> <td>S-P表分析技法、S-P表の見方、S-P表の活用法と実例</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総まとめ</td> <td>講義した内容のうち特に重要な点を再確認し、期末試験を実施する。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	題 目	授 業 内 容	1	教育学とは何か	教育学の定義、「教育」と「学習」の関係、教育学の背景	2	教育学の分野	コンピュータによる学習支援、教育支援、成績処理、教育評価	3	行動主義による学習①	行動主義心理学の歴史、パプロフ、ワトソン、ソーンダイク	4	行動主義による学習②	バラス・スキナーの「猫の問題箱」、プログラム学習	5	目標分析の実際	目標分析の概念と必要性、スモールステップ、目標分析の実際例	6	認知主義による学習①	認知主義心理学の概念と歴史、「分かる」とメンタルモデル	7	認知主義による学習②	知識構造と体験、概念と実際の関係、認知構造	8	シミュレーション	物理概念とは、擬似体験の必要性、学習プロセス、マルチメディア	9	状況論的学習理論	暗黙知と形式知の定義、何故暗黙知は生ずるか、状況の変動	10	授業と教材の設計	インストラクションデザインの概念、教材の役割と設計	11	コンピュータによる学習支援①	e-learning ツール Moodle の概要、教材の作成とアップロード	12	コンピュータによる学習支援②	プログラム学習フローチャート、チュートリアルシステム	13	コンピュータによる教育支援①	多岐選択式によるテスト問題の作成法、テスト解答の集計と分析	14	コンピュータによる教育支援②	S-P表分析技法、S-P表の見方、S-P表の活用法と実例	15	総まとめ	講義した内容のうち特に重要な点を再確認し、期末試験を実施する。
回数	題 目	授 業 内 容																																																
1	教育学とは何か	教育学の定義、「教育」と「学習」の関係、教育学の背景																																																
2	教育学の分野	コンピュータによる学習支援、教育支援、成績処理、教育評価																																																
3	行動主義による学習①	行動主義心理学の歴史、パプロフ、ワトソン、ソーンダイク																																																
4	行動主義による学習②	バラス・スキナーの「猫の問題箱」、プログラム学習																																																
5	目標分析の実際	目標分析の概念と必要性、スモールステップ、目標分析の実際例																																																
6	認知主義による学習①	認知主義心理学の概念と歴史、「分かる」とメンタルモデル																																																
7	認知主義による学習②	知識構造と体験、概念と実際の関係、認知構造																																																
8	シミュレーション	物理概念とは、擬似体験の必要性、学習プロセス、マルチメディア																																																
9	状況論的学習理論	暗黙知と形式知の定義、何故暗黙知は生ずるか、状況の変動																																																
10	授業と教材の設計	インストラクションデザインの概念、教材の役割と設計																																																
11	コンピュータによる学習支援①	e-learning ツール Moodle の概要、教材の作成とアップロード																																																
12	コンピュータによる学習支援②	プログラム学習フローチャート、チュートリアルシステム																																																
13	コンピュータによる教育支援①	多岐選択式によるテスト問題の作成法、テスト解答の集計と分析																																																
14	コンピュータによる教育支援②	S-P表分析技法、S-P表の見方、S-P表の活用法と実例																																																
15	総まとめ	講義した内容のうち特に重要な点を再確認し、期末試験を実施する。																																																
<p>【テキスト】</p> <p>教育学への招待、赤堀侃司著、ジャストシステム</p>																																																		
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>教育学、坂元昴著、日本放送出版協会</p>																																																		
<p>【学生に対する評価の方法】</p> <p>出席状況、聴講態度、試験等を総合して評価する。</p>																																																		

教科番号：6527	授業科目：生徒指導論 (Theory of Methods of Student Guidance)	
(全) 学科 (4) 年 (2) 単位 担当者：切手 純孝		
【授業の到達目標】		
生徒指導及び進路指導の概念の理解に基づいた、実践的な指導ができることを目標とする。		
【授業の概要】		
教師は生徒指導及び進路指導の概念と機能を十分に理解し、また一人一人の生徒をよく理解して、適切な指導・援助を行うことが大切である。		
本授業では、生徒指導及び進路指導の概念の理解に基づいた、実践的な生徒指導及び進路指導について、具体的な事例を通して分かりやすく解説する。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	生徒指導の目的・意義	生徒指導の概念と目的、生徒指導の領域・内容、生徒指導の歴史
2	生徒指導と教育課程との関連 1	生徒指導と教科・道徳との関連
3	生徒指導と教育課程との関連 2	生徒指導と特別活動・総合的な学習との関連
4	生徒指導の組織と計画	生徒指導の組織体制、生徒指導計画
5	生徒理解	生徒理解の意味と機能、生徒理解の領域・内容、
6	生徒とのコミュニケーション	非言語的コミュニケーションと言語的コミュニケーション
7	生徒指導の方法、学級づくり	学級担任の役割、学級づくり、学級崩壊
8	生徒指導の方法、集団指導 1	集団指導の意味と意義、集団指導の形態、
9	生徒指導の方法、集団指導 2	集団活動の指導、集団活動の留意点
10	生徒指導の方法、個別指導 1	教育相談の意義と目的、教育相談担当者の基本的態度、教育相談の進め方
11	生徒指導の方法、個別指導 2	家庭との連携、関係諸機関との連携
12	問題行動の理解と指導 1	問題行動の種類、問題行動の原因、問題行動の早期発見、問題行動の予防
13	問題行動の理解と指導 2	いじめ問題や暴力問題、不登校問題
14	思春期・青年期の進路の課題	進路指導の目的と意義、進路指導の内容、進路指導の課題
15	まとめ・評価	学習の総括、理解度の評価
【テキスト】		
生徒理解・指導と教育相談 牟田悦子 編 (学文社)		
【参考書・参考資料等】		
立ちどまってもいいんだよ 切手純孝 著 (高城書房)		
【学生に対する評価の方法】		
出席状況、授業態度、その他 (リスponsシート)		

教科番号：6528	授業科目：教育相談 (Educational counseling)	
(全) 学科 (4) 年 (2) 単位 担当者：切手純孝		
【授業の到達目標】		
教育相談の基本とその進め方について学び、カウンセリングの基本的な技法を活用した援助・支援ができることを目標とする。		
【授業の概要】		
生徒の心身の発達の理解と生徒の悩みやストレスについての認識を深めた上で、生徒一人一人への助言・援助のあり方、並びに教育相談の基本とその進め方について学習する。また、カウンセリングの基本的な技法についても具体的な実践例を基に解説する。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	生徒の心身の発達の理解	中・高校生の心身の発達についての理解
2	生徒の悩みとストレス ①	思春期の悩みとストレス、ストレスマネジメント
3	生徒の悩みとストレス ②	問題行動とストレスターとの関係、
4	生徒理解の方法と実際	生徒理解の基礎、主観的・客観的・共感的理解
5	カウンセリングの基本	単純な受容、内容の繰り返し、質問のしかた
6	カウンセリング・マインド	教師の望ましい姿勢・態度 (自己一致、共感的理解、無条件の肯定的配慮)
7	生徒の行動と問題	生徒同士の関係、教師と生徒の関係
8	教育相談のすすめ方 ①	面接のもち方・すすめ方、相談記録
9	教育相談のすすめ方 ②	カウンセリングの実際
10	相談事例	相談事例検討会のあり方と実際
11	学校と家庭	教師と保護者との連携のあり方
12	教師の自己理解	エゴグラムを活用した自己理解
13	集団指導	集団指導の方法原理
14	ネットワークづくり	教師間の連携、専門機関との連携
15	まとめ・評価	学習の総括、理解度の評価
【テキスト】		
生徒理解・指導と教育相談 傘田悦子 編 (学文社)		
【参考書・参考資料等】		
立ちどまってもいいんだよ 切手純孝 著 (高城書房)		
【学生に対する評価の方法】		
試験、出席状況、授業態度、その他 (リスポンスシート) を総合して評価をする。		

教科番号：6544	授業科目：事前・事後指導 (Prior Afterward Guidance)	
(全) 学科 (4) 年 (1) 単位 担当者：切手純孝		
【授業の到達目標】		
教育実習の内容や方法等について学習し、教育実習を意義ある充実したものに行うことができることを目標にする。		
【授業の概要】		
教育実習の内容や方法等について解説し、教育実習を意義ある充実したものにするために、教育実習の準備から終了までの過程を想定して授業を構成し、解説・学習していく。 特に、教育実習の中心課題である授業の展開については演習を通して知識と技術の習得に努め、また教育実習中に遭遇する課題について解説する。さらに、教育実習後には具体的な体験をもとにまとめをしていく。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	教育実習の目的と意義	教師養成と教育実習、教育実習の目標、教育実習の内容
2	教育実習の事前研究	教育実習の事前研究、教育実習の形態、教育実習の評価項目
3	教育実習の心得	教育実習生の基本的な姿勢、教育実習中の一日の流れ、教育実習の心得
4	教育実習の内容 1	学校経営、学校の組織、生徒理解、教育課程
5	教育実習の内容 2	生活指導、学級経営、学校保健、学校の施設と環境
6	授業設計、授業研究	教材研究の実際、学習指導の実際、授業研究の実際
7	教育実習直前の準備	教育実習日誌の意義、教育実習日誌の記入の留意点、最終準備のチェック
8	学習指導案とその書き方	学習指導案の形式とその書き方(技術・家庭、数学、工業、情報)
9	学習指導案の作成と指導の実際 1	学習指導案の作成と模擬指導
10	学習指導案の作成と指導の実際 2	学習指導案の作成と模擬指導
11	学習指導案の作成と指導の実際 3	学習指導案の作成と模擬指導
12	事後研究 1	報告書の作成、報告会、自己評価
13	事後研究 2	教育実習のまとめと自己研鑽課題
14	事後研究 3	教育実習のまとめと自己研鑽課題
15	事後研究 4	教育実習のまとめと自己研鑽課題
【テキスト】		
教育実習の研究 改訂版 教師養成研究会編著 学芸図書		
【参考書・参考資料等】		
教育実習完全ガイド 山崎英則編著 ミネルヴァ書房		
【学生に対する評価の方法】		
出席状況、学習指導案、実習日誌等を総合的に評価する。		

教科番号：6543	授業科目：教職総合演習 (Total Exercise Integrated Study)	
(全) 学科 (3) 年 (2) 単位 担当者： 切手 純孝, 中菌 政彦		
【授業の到達目標】		
教員を目指す学生の教育現場での実践的な指導技術の向上を目標とする。		
【授業の概要】		
学校現場に取りまく現状と課題について、今日的、具体的な事例を通して学習する。また、学校現場の課題に適切に対応できる実践的な指導力を身に付ける。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	教職総合演習の意義	ガイダンス、大学における総合演習の位置づけ
2	求められる教師の資質・能力	今後、特に求められる具体的な教師の資質・能力
3	教師と生徒	カウンセリング・マインドと生徒への指導・援助のあり方
4	総合的な学習の時間の概説	中学校、高等学校における総合的な学習の実際
5	問題解決学習の意義と方法	問題解決学習の理論と実際
6	自己表現と聴く技術	話し方の基本と聴き方の技法
7	ディベートの意義と方法 1	ディベートの理論と方法
8	ディベートの意義と方法 2	ディベートの実際と実践
9	演習1 意見のまとめ方 1	バズ学習の理論と方法
10	意見のまとめ方 2	バズ学習の実際と実践
11	演習2 福祉の学習 1	ウェビング法を生かした福祉学習の課題
12	福祉の学習 2	福祉学習の実際
13	演習3 環境の学習 1	KJ法の理論と概略
14	環境の学習 2	KJ法を生かした環境学習の実践
15	まとめ・評価	学習の総括、理解度の評価
【テキスト】 資料配付		
【参考書・参考資料等】 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領		
【学生に対する評価の方法】 出席状況、課題の提出状況、学習態度、その他 (リスポンスシート)		

教科番号：6641	授業科目：木材加工（製図・実習含む） （Wood Working (Including Drafting and Training)）	
（ 全 ）学科（ 4 ）年（ 3 ）単位 担当者： 難波 礼治、中藺 政彦		
【授業の到達目標】 木材の特性に応じた加工理論ならびに加工技術についての基礎知識を修得する。 具体的には、木材の切削理論、木材の塗装技術、木工具・木工機械の原理を修得する。		
【授業の概要】 木材加工とは、木質系素材に道具や機械を用いて、人間にとって有用なものを作り上げていくプロセスである。主に、手加工、機械加工等の基礎的な知識理解を通して、木材の特性に応じた適切な加工理論、製品に仕上げるまでの加工技術について学び、実際の製作実習でその確認を図る。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	学習指導要領と木材加工	学習指導要領における木材加工の位置
2	設計	設計の概念、機能、構想
3	製図	製図の規格及びキャビネット図、等角法及び第三角法による作図、
4	樹木	樹木の種類、成長と組織（針葉樹・広葉樹）
5	木質材料の種類	素材、合板、削片板、繊維板、その他
6	木材の物理的性質	木材の重さ、木材中の水分と収縮膨張
7	木材の機械的性質	弾性、圧縮強さ、引っ張り強さ、せん断強さ、曲げ強さ
8	木工具（1）	のこぎり、かんなの種類と構造及びのこぎり切断、かんな削り
9	木工具（2）	のみ、きりの種類と構造及び穴あけ
10	接合・組み立て	接合材科（くぎ、木ねじ、その他）及び各種の接合法
11	木工機械（1）	丸のこ盤、帯のこ盤、糸のこ盤
12	木工機械（2）	かんな盤、角のみ盤、ボール盤
13	木材加工実習（1）	木製品の製作
14	木材加工実習（2）	木製品の製作
15	木材加工実習（3）	木製品の製作
【テキスト】 「木材の加工」第一工業大学		
【参考書・参考資料等】 「新しい技術・家庭 上・下 東京書籍」 資料配布		
【学生に対する評価】 講義の基礎的な知識の習得状況と出席状況、課題に対するレポート、実習の態度と試験の結果等から総合的に判断し評価する。		

教科番号：6642	授業科目：金属加工（製図・実習含む） （Metal Working (Including Drafting and Training)）	
（ 全 ） 学科（ 3 ） 年（ 1 ） 単位 担当者：田辺征一		
【授業の到達目標】 金属についての基礎的な知識および金属を加工する方法と技術を習得する。さらに、加工機械、加工工具および測定工具の取り扱い方を実習を通して習得し、知っておかなければならない安全上の注意点についても学習する。		
【授業の概要】 中学校の教育課程に準拠し、中学校「技術・家庭科」における「金属」にかかる事項について解説する。内容は、金属の組織と性質、熱処理、金属材料の試験法、金属の加工法、測定などについて学習する。特に、手加工と工具については、実証的な学習をし、具体的な指導法まで習得させる。「ものづくり」の基礎として立体の表し方・製図の基礎をあわせて学習する。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	製図の基礎 1	図面、製図の規格、製図用具、図面の様式、寸法記入、平面図法
2	製図の基礎 2	投影法と投影図、第三角法、軸測投影図、等角図、キャビネット図
3	金属の性質	金属の性質、金属の変形、金属の機械的性質、金属の変態
4	鉄 鋼	機械材料の分類、鉄鋼材料、製鋼
5	鉄鋼の組織と性質	鉄鋼の変態、炭素鋼、炭素鋼の性質と種類、合金の組織
6	熱処理、非鉄金属	熱処理の原理、熱処理の実際、非鉄金属の種類
7	金属材料の試験法	応力、ひずみ、硬さ、じん性
8	測 定	精密測定、ノギス、マイクロメーター
9	金属加工法	塑性変形を利用した加工（鍛造、圧延、押し出し・引き抜き）、板金加工
10	金属加工法	切削加工、研削加工、
11	金属加工実習 1	けがき、切削、切断
12	金属加工実習 2	穴あけ、ねじ切り、折り曲げ、接合、塗装
13	金属加工実習 3	ペンダントの製作
14	金属加工の学習指導法	技術ともものづくりにおける金属加工の指導法
15	まとめ・評価	
【テキスト】 毎回配布する資料		
【参考書・参考資料等】 機械工作要論 大西久治 他 著 理工学社 図解 機械材料 打越二彌 著 東京電気大学出版局 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 文部科学省		
【学生に対する評価】 講義の基礎的な知識の習得状況と出席状況、課題に対するレポート、実習の態度と試験の結果等から総合的に判断し評価する。		

教科番号：6643		授業科目：機械（含実習）（Machine（With the practice））
航空宇宙・情報電子・社会環境・建築デザイン 学科 （3）年 （1）単位 担当者：本田 隆志		
<p>【授業の到達目標】</p> <p>中学校の教科「技術・家庭科」の機械（含実習）に関する事項を指導できる能力を習得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動伝達の機構（リンク装置・カム機構等）について理解できる。 ・制作図をもとに作品を完成する能力を習得する。 ・機械の整備及び工具の利用について理解し作業できる能力を習得する。 ・エネルギーの変換方法（ガソリン機関）について理解し、分解・組立ても習得する。 		
<p>【授業の概要】</p> <p>中学校の「技術・家庭科」における「機械」に関する一般的な教養として必要な、製図、機構学、内燃機関、金属加工、CADを取り入れて、中学生を適切に指導できるように、それぞれの専門の教員ができるだけ平易に実践に即した授業を実習を中心に進めていく。</p>		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	機械工学の概論	中学校技術教育に必要な機械の概要と製図法を説明する
2	機械製図	実習において製作する作品の製図を画く
3	旋削作業	旋盤の主な構造、取扱い操作について説明
4	旋削作業	旋盤の基本的な取扱い
5	旋削作業	製図した図面に基づき、平行部、曲面を切削し、仕上げ後作品提出
6	板金作業の進め方	塑性加工の一つである板金作業に際しての諸事項の説明
7	板金作業	製図したブックエンドの図面を基に、アルミ板を切断、穴あけ、曲げ、リベット、仕上げ作業後、作品提出
8	内燃機関のしくみ	動力の発生、内燃機関の基本動作、4・2サイクル機関の動作の説明
9	ガソリン機関の整備	ガソリン機関の分解、組立てに必要な工具やその使用方法を学び、分解、組立て作業を通して、各部装置のしくみも学ぶ
10	ガソリン機関の整備	組立て、点検後、機関を始動させて機関調整を行う
11	コンピュータ製図（CAD）	技術教育「機械」におけるコンピュータの有効活用の説明
12	CAD	座標の認識と数学的な取扱い及び設計問題のプログラミング
13	CAD	図面を作成して提出する
14	引張り試験	旋盤作業で製作した試験片の引張り試験を行い、材料の性質を知る
15	まとめ	各実習で製作した作品や体験を互いに評価しあい、それを基に中学生を指導する観点からレポートさせる
【テキスト】 中学校の技術・家庭教科書、指導書、機械工学概論の抜粋資料配付		
【参考書・参考資料等】 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 文科省 東京書籍		
【学生に対する評価の方法】 出席、平常点、図面、製作作品、レポート		

教科番号：6644	授業科目：電気（含実習）（Electric（With the Practice））																																																	
（全）学科 （3）年 （2）単位 担当者：中菌 政彦																																																		
<p>【授業の到達目標】</p> <p>中学校の教科「技術・家庭科」「B エネルギー変換に関する技術」の電気に関する事項を指導できる能力を習得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「技術・家庭科」における電気学習の意義を理解し説明できる。 ・ 直流回路、交流回路の基礎理論を理解し説明できる。 ・ 電気エネルギーを光・熱・力のエネルギーに変換する仕組みを理解し説明できる。 ・ 電気量の測定の仕組みを理解し説明できる。 ・ 基礎的な電源回路・増幅回路の仕組みを理解し説明できる。 ・ 基礎的な電源回路・増幅回路の製作ができる。 																																																		
<p>【授業の概要】</p> <p>中学校の教育課程に準拠し、中学校「技術・家庭科」における電気にかかる事項について解説する。 特に中学校における電気に関する学習の題材として家庭電化機器をエネルギー変換の視点から捉えさせ具体的に・実的に学習する。</p>																																																		
<p>【授業要旨】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 30%;">題 目</th> <th style="width: 60%;">授 業 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>電気学習の意義</td> <td>学習指導要領の「技術・家庭科」における電気学習の位置づけ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>直流回路</td> <td>電気回路の要素、電流と電荷、電位、電流、抵抗、オームの法則</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>電気をつくる仕組み</td> <td>電池の種類、電池の構造、電池の接続、電池の管理、簡単な電池の製作</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>回路網</td> <td>キルヒホッフの法則、ブリッジ回路、回路の設計</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>磁石の性質</td> <td>電磁石の仕組み、電流と磁界、電磁力、フレミングの法則、</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>発電の仕組み</td> <td>発電機の仕組み、各種の発電の特性、送電の仕組み、</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>交流、屋内配線</td> <td>配線器具、漏電と感電、家庭の電気機器野取り扱い</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>光エネルギーへの変換</td> <td>白熱電球の発光の仕組みと構造、蛍光灯の発光の仕組みと構造</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>熱エネルギーへの変換</td> <td>ジュール熱、電熱機器の構造、電磁調理器の構造</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>動力エネルギーへの変換</td> <td>電動機の種類、電動機の回転原理とアラゴの円盤、電動機の構造</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>電気の測定</td> <td>電流計・電圧計の仕組み、回路計の仕組み</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>回路計の使用法</td> <td>電圧・電流・抵抗の測定、導通テスト、デジタル計器</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>電子回路</td> <td>電子回路の構成部品、電源回路の製作</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>増幅回路</td> <td>増幅のしくみ、増幅回路の製作</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>学習の総括</td> </tr> </tbody> </table>			回数	題 目	授 業 内 容	1	電気学習の意義	学習指導要領の「技術・家庭科」における電気学習の位置づけ	2	直流回路	電気回路の要素、電流と電荷、電位、電流、抵抗、オームの法則	3	電気をつくる仕組み	電池の種類、電池の構造、電池の接続、電池の管理、簡単な電池の製作	4	回路網	キルヒホッフの法則、ブリッジ回路、回路の設計	5	磁石の性質	電磁石の仕組み、電流と磁界、電磁力、フレミングの法則、	6	発電の仕組み	発電機の仕組み、各種の発電の特性、送電の仕組み、	7	交流、屋内配線	配線器具、漏電と感電、家庭の電気機器野取り扱い	8	光エネルギーへの変換	白熱電球の発光の仕組みと構造、蛍光灯の発光の仕組みと構造	9	熱エネルギーへの変換	ジュール熱、電熱機器の構造、電磁調理器の構造	10	動力エネルギーへの変換	電動機の種類、電動機の回転原理とアラゴの円盤、電動機の構造	11	電気の測定	電流計・電圧計の仕組み、回路計の仕組み	12	回路計の使用法	電圧・電流・抵抗の測定、導通テスト、デジタル計器	13	電子回路	電子回路の構成部品、電源回路の製作	14	増幅回路	増幅のしくみ、増幅回路の製作	15	まとめ	学習の総括
回数	題 目	授 業 内 容																																																
1	電気学習の意義	学習指導要領の「技術・家庭科」における電気学習の位置づけ																																																
2	直流回路	電気回路の要素、電流と電荷、電位、電流、抵抗、オームの法則																																																
3	電気をつくる仕組み	電池の種類、電池の構造、電池の接続、電池の管理、簡単な電池の製作																																																
4	回路網	キルヒホッフの法則、ブリッジ回路、回路の設計																																																
5	磁石の性質	電磁石の仕組み、電流と磁界、電磁力、フレミングの法則、																																																
6	発電の仕組み	発電機の仕組み、各種の発電の特性、送電の仕組み、																																																
7	交流、屋内配線	配線器具、漏電と感電、家庭の電気機器野取り扱い																																																
8	光エネルギーへの変換	白熱電球の発光の仕組みと構造、蛍光灯の発光の仕組みと構造																																																
9	熱エネルギーへの変換	ジュール熱、電熱機器の構造、電磁調理器の構造																																																
10	動力エネルギーへの変換	電動機の種類、電動機の回転原理とアラゴの円盤、電動機の構造																																																
11	電気の測定	電流計・電圧計の仕組み、回路計の仕組み																																																
12	回路計の使用法	電圧・電流・抵抗の測定、導通テスト、デジタル計器																																																
13	電子回路	電子回路の構成部品、電源回路の製作																																																
14	増幅回路	増幅のしくみ、増幅回路の製作																																																
15	まとめ	学習の総括																																																
<p>【テキスト】 配布資料</p>																																																		
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 平成20年9月 文部科学省 教育図書</p>																																																		
<p>【学生に対する評価の方法】</p> <p>電気に関する基礎的な知識や技能の習得状況と中学校における技術を担当する教師としての意欲と責任感を、出席数の充足度合い、課題に対するレポートの内容、実習の態度と試験の結果等から総合的に判断し評価する。</p>																																																		

教科番号：6645	授業科目：栽培（含実習）（Plant Cultivation（With the Practice））																																																	
（全）学科 （4）年 （1）単位 担当者：中菌 政彦																																																		
<p>【授業の到達目標】</p> <p>中学校の教科「技術・家庭科」「D 生物育成に関する技術」の栽培に関する事項を指導できる能力を習得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「技術・家庭科」における栽培学習の意義について理解し説明できる。 ・花・野菜の生理、実的な栽培技術について理解し説明できる。 ・花・野菜の栽培計画、栽培用具・機器について理解し説明できる。 ・地域の特性を踏まえ、環境に留意した花や野菜の育て方を理解し説明できる。 <p>・題材として適する花や野菜を育てられる。</p>																																																		
<p>【授業の概要】</p> <p>中学校の教育課程に準拠し、中学校「技術・家庭科」における「栽培」にかかる事項について解説する。内容は、栽培と植物生理、作物の生長に即した栽培技術、栽培計画、栽培の実際、栽培用具等について学習する。特に中学校における栽培学習の題材として草花や野菜の栽培について具体的・実的に学習する。</p>																																																		
<p>【授業要旨】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 30%;">題 目</th> <th style="width: 60%;">授 業 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>作物と栽培</td> <td>栽培と人間生活、作物の利用、作物の性質</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>栽培学習の目的と内容</td> <td>中学校「技術・家庭科」における栽培学習の位置付け</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>栽培と植物生理 1</td> <td>栄養成長と生殖成長、光合成の生理</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>栽培と植物生理 2</td> <td>水と養分の吸収、植物の呼吸、植物ホルモン</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>草花・野菜の種類と品種</td> <td>草花の種類と品種、野菜の種類と品種</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>作物の栽培技術 1</td> <td>種子の構造と生育、種子蒔き、発芽の条件と生育、株分けと分球</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>作物の栽培技術 2</td> <td>用土、土壌の構造と生育、肥料の種類とはたらき、肥料分の配合、施肥の方法</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>作物の栽培技術 3</td> <td>除草、中耕、土寄せ、かん水、剪定、摘心、摘芽、支柱立てと誘引、マルチング</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>作物の栽培技術 4</td> <td>害虫の予防、病気の予防、農薬の種類、農薬の使い方</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>栽培計画</td> <td>栽培計画の立て方、連作障害、連作障害の予防</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>草花栽培の実際 1</td> <td>サルビアの栽培、パンジーの加温栽培、アサガオの遮光栽培</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>野菜栽培の実際 2</td> <td>ハツカ大根の栽培、トマトの栽培、レタスの養液栽培</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>栽培用具・栽培機器</td> <td>栽培に使う道具や機械の使用法と管理、温室の管理</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>環境と栽培</td> <td>地域の特性と栽培</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>学習の総括</td> </tr> </tbody> </table>			回数	題 目	授 業 内 容	1	作物と栽培	栽培と人間生活、作物の利用、作物の性質	2	栽培学習の目的と内容	中学校「技術・家庭科」における栽培学習の位置付け	3	栽培と植物生理 1	栄養成長と生殖成長、光合成の生理	4	栽培と植物生理 2	水と養分の吸収、植物の呼吸、植物ホルモン	5	草花・野菜の種類と品種	草花の種類と品種、野菜の種類と品種	6	作物の栽培技術 1	種子の構造と生育、種子蒔き、発芽の条件と生育、株分けと分球	7	作物の栽培技術 2	用土、土壌の構造と生育、肥料の種類とはたらき、肥料分の配合、施肥の方法	8	作物の栽培技術 3	除草、中耕、土寄せ、かん水、剪定、摘心、摘芽、支柱立てと誘引、マルチング	9	作物の栽培技術 4	害虫の予防、病気の予防、農薬の種類、農薬の使い方	10	栽培計画	栽培計画の立て方、連作障害、連作障害の予防	11	草花栽培の実際 1	サルビアの栽培、パンジーの加温栽培、アサガオの遮光栽培	12	野菜栽培の実際 2	ハツカ大根の栽培、トマトの栽培、レタスの養液栽培	13	栽培用具・栽培機器	栽培に使う道具や機械の使用法と管理、温室の管理	14	環境と栽培	地域の特性と栽培	15	まとめ	学習の総括
回数	題 目	授 業 内 容																																																
1	作物と栽培	栽培と人間生活、作物の利用、作物の性質																																																
2	栽培学習の目的と内容	中学校「技術・家庭科」における栽培学習の位置付け																																																
3	栽培と植物生理 1	栄養成長と生殖成長、光合成の生理																																																
4	栽培と植物生理 2	水と養分の吸収、植物の呼吸、植物ホルモン																																																
5	草花・野菜の種類と品種	草花の種類と品種、野菜の種類と品種																																																
6	作物の栽培技術 1	種子の構造と生育、種子蒔き、発芽の条件と生育、株分けと分球																																																
7	作物の栽培技術 2	用土、土壌の構造と生育、肥料の種類とはたらき、肥料分の配合、施肥の方法																																																
8	作物の栽培技術 3	除草、中耕、土寄せ、かん水、剪定、摘心、摘芽、支柱立てと誘引、マルチング																																																
9	作物の栽培技術 4	害虫の予防、病気の予防、農薬の種類、農薬の使い方																																																
10	栽培計画	栽培計画の立て方、連作障害、連作障害の予防																																																
11	草花栽培の実際 1	サルビアの栽培、パンジーの加温栽培、アサガオの遮光栽培																																																
12	野菜栽培の実際 2	ハツカ大根の栽培、トマトの栽培、レタスの養液栽培																																																
13	栽培用具・栽培機器	栽培に使う道具や機械の使用法と管理、温室の管理																																																
14	環境と栽培	地域の特性と栽培																																																
15	まとめ	学習の総括																																																
<p>【テキスト】</p> <p>配布資料</p>																																																		
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 平成20年9月 文部科学省 教育図書</p>																																																		
<p>【学生に対する評価の方法】</p> <p>栽培に関する基礎的な知識や技能の習得状況と中学校における技術を担当する教師としての意欲と責任感を、出席数の充足度合い、課題に対するレポートの内容、実習の態度と試験の結果等から総合的に判断し評価する。</p>																																																		

教科番号：6646		授業科目：情報とコンピュータ（実習含む） （Information and Computer（With the practice））
（ 全 ） 学科 （ 2 ） 年 （ 3 ） 単位 担当：山田 猛矢		
【授業の到達目標】		
<ul style="list-style-type: none"> ・生活や産業の中で情報手段の果たしている役割（情報手段の特徴及び情報モラルの必要性）が理解できる。 ・コンピュータの構成と機能及び操作ができる。 ・コンピュータの利用形態及び基本的な情報の処理ができる。 ・情報の伝達方法の特徴と利用方法を知り、情報を収集、判断、処理し、発信ができる。 ・マルチメディアの特徴と利用方法を知り、ソフトウェアを選択して、表現や発信ができる。 ・プログラムの機能を知り、プログラムの作成と簡単な計測・制御ができる。 		
【授業の概要】		
<p>本講義は、現代社会において必要不可欠となっているコンピュータの基礎について学習する。前期は、まずコンピュータの歴史、構造、機能等について学び、その後インターネット、コンピュータウイルス、さらに情報化社会における情報の重要性、扱い方について学ぶ。後期は、直接コンピュータを扱いながら、Word、Excelなどの一般的によく使われるソフトについての基本操作を習得し、情報発信における表現方法、情報処理の方法について学ぶ。</p>		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	身の回りのコンピュータ	身の回りのコンピュータについて、その特徴、付き合い方について考える。
2	コンピュータの歴史	コンピュータができるまでと当初のコンピュータについて説明する。
3	情報理論	情報理論のキーワード「コード化」について説明する。
4	デジタルとアナログ	デジタルとアナログの違い、それぞれの利点、欠点について考える。
5	論理回路 1	AND 回路、OR 回路、NOT 回路について説明する。
6	論理回路 2	具体的な足し算回路に値を入力したときの出力について考える。
7	電卓とコンピュータの違い	ただの計算機がコンピュータになったのはなぜか解説する。
8	ハードウェア	コンピュータの五大要素について説明する。
9	ソフトウェア	OSの役割、アプリケーションについて説明する。
10	電子回路の変化	真空管、トランジスタ、IC、・・・と変化していく電子回路について紹介する。
11	コンピュータネットワーク	コンピュータネットワークの仕組みや種類等について説明する。
12	インターネット	インターネット、電子メール等の仕組みについて説明する。
13	コンピュータウイルス	ウイルスの種類、対策、対処方法について説明する。
14	まとめと試験	これまで学習してきた内容についての確認試験を行う。
15	コンピュータの基本操作	起動、終了、ファイルの保存等の基本操作について説明する。
16	Word	ワープロソフトの基本的な扱いを説明し、文章の作成を行う。
17	Excel 1	表計算ソフトの基本的な扱いを説明する。
18	Excel 2	表を作成し、合計、平均値などの関数を扱う。
19	Excel 3	セルに任意の計算式を書き込み計算をさせる。
20	PowerPoint 1	プレゼンテーションソフトの基本的な扱いを説明する。
21	PowerPoint 2	より見やすい、より魅力的なプレゼン資料について考え、作成する。
22	HTML 1	HTMLの基本構造について説明し、簡単なWebページを作成する。
23	HTML 2	タグの属性について説明し、より見やすいWebページにする。
24	HTML 3	写真やリンクを張り、魅力的なWebページにする。
25	HTML 4	tableタグを使い、レイアウトに凝ったWebページにする。
26	Excel Macro 1	Excelのマクロについて説明する。
27	Excel Macro 2	“新しいマクロの記録”を使ってマクロを作成し、ボタンに登録する。
28	Excel Macro 3	Visual Basic Editorの基本操作について説明する。
29	Excel Macro 4	for文を使って、繰り返しの作業をするマクロを作成する。
30	Excel Macro 5	ユーザーフォームについて説明し、簡単なフォームを作成する。
【テキスト】：痛快！コンピュータ学 坂村 健 集英社インターナショナル		
【参考書・参考資料等】：なし		
【学生に対する評価】：試験、出席、平常点、レポート等で総合的に評価する。		

教科番号：6628		授業科目：職業指導（Vocational Guidance）	
（ 全 ） 学科 （ 4 ） 年 （ 2 ） 単位 担当者：西 哲哉			
【授業の到達目標】 教師として三者間（生徒・保護者・学校）の問題解決に向け、広い知識と指導性を持ち、生徒には勤労観・職業観等の職業教育を理解させ、人間としての「在り方・生き方」教育を「進路指導」のなかで、計画的・組織的・体系的に学ぶことを目標としている。			
【授業の概要】 高等学校における職業指導は、個人の個性化、社会化を図りながら、生徒たちの人生設計に基づいて、進路を生徒たちが主体的に選択し、決定し、やがて社会的職業的自己実現ができるように指導援助するところに大きな目標を置かなければならない。授業では職業についての認識を深めるとともに、進路指導に関するホームルーム担任としての指導の在り方を含め、テキストに基づいて、具体的事例を引用しながら講義し、課題を与えて、まとめさせ理解を深めていきたい。更に、進路を決める心理テストの作業を通して、適性と進路についての理解も深めさせたい。			
【授業要旨】			
回数	題 目	授 業 内 容	
1	職業の意義	職業の意義 職業の変遷 職業の種類	
2	進路指導の理念	人間としての在り方生き方 社会的・職業的自己実現	
3	進路指導の基本的原則	自己実現の指導計画性や継続性 全校教師の協力 教師の倫理性 家庭等との連携	
4	高校の進路指導の特色	多様性からみた特色 発達課題からみた特色	
5	進路指導の組織	全校的協力体制の確立 進路指導の校務分掌上の組織	
6	進路指導の運営	担任教師の役割 進路指導主事の制度化と任務	
7	進路指導の諸計画	教員のための計画 生徒に働きかけるための計画 進路指導の施設・設備・予算	
8	進路指導のための研修	進路指導の理論 進路相談の理論 個人資料の意義と活用 進路情報資料の意義と活用 校内研修 校外研修 自己研修	
9	家庭及び関係諸機関との連携	学校と家庭との連携 高等学校と中学校・大学等との連携 学校と公共職業安定所との連携	
10	進路指導の諸活動	生徒の自己理解 情報資料 啓発的経験 進路指導に関する相談活動	
11	進路指導の評価	評価の意義と特色 評価の対象と内容・態度 評価の実施と結果の利用	
12	進路指導と教育課程	教育課程と進路指導との関係各教科、道徳と進路指導、特別活動と進路指導	
13	ホームルーム担任の指導（1）	進路指導と担任の役割職業的発達をどのように考えるか	
14	ホームルーム担任の指導（2）	進路指導と担任の役割職業的発達をどのように考えるか	
15	まとめ・評価	ペーパーテスト及び課題提出等の総合評価	
【テキスト】プリント			
【参考書・参考資料等】 「進路指導の理論と実践」小竹正美他 日本文化科学社「最新進路指導入門」荒井昭雄他 実務教育出版			
【学生に対する評価】 試験、未定出席、レポートなど総合成績で評価を行う			

教科番号：6661	授業科目：代数学 (Algebra)	
(全) 学科 (2) 年 (2) 単位 担当者：中野 明德		
【授業の到達目標】		
・数学の代数的内容の基礎的概念を理解する。		
【授業の概要】		
本講義は大学卒業後に教職を目的とする学生を対象とした講義である。中学校の数学及び高校での数学で取り扱う代数的内容について、専門的な立場から基礎を理解し、学生が教職についたときより優れた数学教育が出来るように、可能な限り演習時間を確保し、具体的な問題の解決に習熟できるような講義内容とする。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	整式の計算	整式の加法・減法・乗法・除法、剰余の定理、因数定理
2	無理数・無理式	平方根・立方根、平方根・立方根の計算、無理式
3	方程式・不等式	方程式の同値関係、不等式の同値関係
4	二次方程式・二次不等式	二次方程式の解の判別や解の存在範囲
5	無理方程式・不等式	無理方程式と無理不等式の解法
6	方程式の解の理論	解と係数の関係、共通解、方程式の整数解
7	対称式、交代式	多元整式、対称式、交代式
8	三次方程式・四次方程式	三次方程式と四次方程式の一般解 (カルダーノの方法等)
9	行列の和、スカラー倍	行列の和、差、スカラー積の基本的計算をする
10	行列の応用 (I)	行列を利用して連立線形方程式の解法について学ぶ
11	行列の応用 (II)	行列の一次変換
12	複素数	複素数と演算、二次方程式の解と係数の関係
13	行列式の定義	行列式の定義と計算方を学ぶ
14	逆行列と行列式	行列式とその逆行の関係を学ぶ
15	まとめ・評価	
【テキスト】 ：初回授業で紹介、プリント等の資料配布		
【参考書・参考資料等】 ：授業中に紹介		
【学生に対する評価】 ：複数回の確認試験、提出物、出席等で総合的に評価する。		

教科番号：6662	授業科目：幾何学 (Geometry)	
(航空宇宙工) 学科 (2) 年 (2) 単位 担当者：竹下 俊一		
【授業の到達目標】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の基礎的な考え方を身につける。 ・ ベクトルの概念を理解し、平面・空間ベクトルの導出ができる。 		
【授業の概要】		
<p>本講義は大学卒業後に教職を目的とする学生を対象とした講義である。高校生の数学の学力の低下が最近言われているが、これは教科書の内容や、授業時間の不足によるものと思われる。本講義ではしっかり身につけ学生が教職についてときより優れた数学教育が出来るように講義をする。また学生の理解を深める為に出来るだけ授業に演習を取り入れる。</p>		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	図形の基礎	図形の位置関係, 移動, 構成
2	角と平行線	角と平行線の関係, 直線の平行条件
3	図形の計量	平面図形の面積, 体積, 立体図形の表面積, 体積
4	円の計量	円の中心角, 円周角, 円周, 円に内接する三角形・四辺形
5	円と接線	円に内接・外接する図形の性質
6	三平方の定理	三平方の定理を応用した図形・円の計量
7	ベクトルの定義	ベクトルの意味と定義及び演習
8	ベクトルの加減法	ベクトルの性質と算法の演習
9	ベクトルの内積	ベクトルの内積の演習と応用
10	ベクトル方程式	方程式のベクトルで表現法と演習
11	空間における点、直線、平面	空間における点、直線、平面の導出
12	空間でのベクトルの内積	空間ベクトルの内積の定義と演習
13	球の方程式	空間での球の方程式の表し方と球の演習
14	行列の定義	ベクトルと行列の定義との相互関係
15	まとめ・評価	
【テキスト】：授業の初めに指示		
【参考書・参考資料等】：なし		
【学生に対する評価】：レポート、平常点、試験等を総合して評価する。		

教科番号：6663	授業科目：解析学 (Analysis)	
(航空宇宙) 工学科 (2) 年 (2) 単位 担当者：前園 盛義		
【授業の到達目標】		
<ul style="list-style-type: none"> ・集合と写像の概念を導入し、その演算について ・微分積分の基礎的概念が理解できる 		
【授業の概要】		
解析は中学、高校での数学の中心となる。本講義では学生が教職についたときより優れた数学教育が出来るように講義をする。講義は高校での基礎的内容の復習を兼ねながらより高等な立場から講義する。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	集合と写像	集合と演算, 集合と関数
2	論理	論理, 推論, 命題
3	濃度の大小	全射, 単射, 濃度の大小
4	距離空間	ユークリッド空間, 開集合, 閉集合
5	微分法 (1)	初等関数の微分 (三角関数、指数関数、有理関数、無理関数)
6	微分法 (2)	初等関数の微分 (三角関数、指数関数、有理関数、無理関数)
7	微分法の応用	関数の平均値の定理とテーラ展開
8	逆関数の微分	逆関数の微分の公式とその証明
9	積分 (1)	積分の定義と基本定理
10	積分 (2)	置換積分, 部分積分
11	積分の応用	定積分と不定積分
12	重積分 (1)	垂積分と定義と演習
13	重積分 (2)	3 次、n 次垂積分の定義と計算
14	微分方程式の定義、解法	簡単な微分方程式の導出と解法
15	まとめ・評価	
【テキスト】 ： 授業で指示する。		
【参考書・参考資料等】 なし		
【学生に対する評価】		
レポート、平常点、試験等を総合して評価する		

教科番号：6664	授業科目：確率論・統計学 (Theory of Probability and Statistics)	
(航空宇宙) 工学科 (2) 年 (2) 単位 担当者：中野 明德		
【授業の到達目標】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 確率の基本を理解し、数的処理ができる。 ・ 統計の基本を理解し、統計処理や偏差値計算ができる。 		
【授業の概要】		
<p>本講義では順列、組み合わせ、確率及び基礎的統計の基礎的な考え方を解説する。</p> <p>また、統計処理や偏差値計算、そしてこれらの理解のために、できるだけ具体的に解説する。</p> <p>それによって、学生が教職についたときより優れた数学教育が出来るように配慮する。</p>		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	順列、組み合わせ (I)	順列、組み合わせの定理、演習
2	順列、組み合わせ (II)	円順列、重複順列
3	二項定理 (I)	式の展開と係数計算、演習
4	二項定理 (II)	多項定理の展開とその応用
5	確率空間	確率空間と確率変数、確率の基本的性質
6	独立試行と反復試行	独立試行、反復試行と確率の関係、演習
7	分布関数	代表的な分布関数とその数理的解説
8	平均、分散	平均、分散の基礎的な性質
9	散布度：平均と偏差、標準偏差	平均偏差、標準偏差とデータを用いた標準偏差の演習
10	正規分布 (1)	正規分布を理解し、各種統計の処理をする
11	正規分布 (2)	統計処理の方法を学び各種データを処理する
12	偏差値 (1)	偏差値を用いて確率を計算し偏差値の理解を深める
13	相関表	データを用いた相関係数の求め方、回帰直線、相関表の扱い
14	推定、区間推定	各種データを用いた区間推定の演習
15	まとめ・評価	
【テキスト】：プリント		
【参考書・参考資料等】：なし		
【学生に対する評価】：レポート、平常点、試験等を総合して評価する		

教科番号：6638	授業科目：コンピュータ（Computer）	
（航空宇宙）工学科 （3）年 （2）単位 担当者：灘光 陽		
【授業の到達目標】		
中学校・高等学校の教科「数学」における「コンピュータ」に関する分野を担当できる基礎的な力を育成することを目標とする。		
【授業の概要】		
本講義は、計算機を十分に理解するために、ハードウェアの基礎を学習する。また、専門分野においてコンピュータを活用するために、ソフトウェアの基礎・プログラミングならびに数値計算法の手法を習得する。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	情報科学と計算機	コンピュータの歴史と情報工学の応用分野
2	2進数による表現（1）	基数変換
3	2進数による表現（2）	2進数の加算と乗算、2進数の引き算、浮動小数の取り扱い
4	論理回路（1）	半導体とスイッチング素子、2進数の記憶と電子回路
5	論理回路（2）	真理値表と論理回路、ベン図
6	ブール代数	ブール演算と加算器の設計
7	コンピュータの構造	コンピュータの基本構成
8	コンピュータの動作	コンピュータの動作原理
9	プログラム	プログラム言語、プログラム例
10	プログラムの構成	フローチャート、プログラミング
11	数値計算法（1）	微分方程式
12	数値計算法（2）	数値積分
13	数値計算法（3）	差分法、有限要素法
14	オペレーティングシステム	オペレーティングシステムの概要
15	まとめ	
【テキスト】		
情報工学概論 三井田惇郎 著 森北出版		
【参考書・参考資料等】		
情報科学とコンピュータ 竹田 仁（共著） 日本理工出版会		
【学生に対する評価】		
3回の小テストの結果、授業態度、課題の提出状況ならびに出席状況で総合的に評価する。		

教科番号：6651	授業科目：情報化社会 (Informational Association)	
(情報・機械) 学科 (2) 年 (2) 単位 担当者：石田尾 博夫		
【授業の到達目標】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報化が人々の生活に及ぼす影響を理解する。 ・ 情報モラルの必要性や情報のセキュリティ管理の重要性などを理解する。 		
【授業の概要】		
この科目のねらいは、情報化と情報産業の発展が現代社会にどのように影響し、どのような変化をもたらしているかについての基本的な知識を得ることを主眼とする。そのため講義では、(1) 情報化が人々の生活に及ぼす影響、(2) 情報産業の発展と社会との関わり、高度情報通信社会における情報モラルの必要性や情報のセキュリティ管理の重要性などの諸問題を考察する。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	情報化社会とは何か	情報化という社会変化の本質
2	情報化と社会生活 (1)	情報化が社会生活に及ぼす影響 (要因・分析)
3	情報化と社会生活 (2)	情報伝達手段の変遷 (コンピュータ等の情報関連機器・インターネット・IT 革命)
4	情報化と社会生活 (3)	情報通信技術の動向 (普及状況と生活の質の変化)
5	情報産業の発展	情報化の進展 (ネットワークシステム/コンピュータ通信とマルチメディア産業)
6	情報産業の構造変化	情報軸の遷軸 意識改革と人材教育 インフラ整備
7	情報産業の発展と社会	新しい情報産業 新しい通信システム (画像/衛星通信など)
8	情報産業の発展と課題	情報産業の今後の在り方 (次世代のコンピュータ)
9	情報社会と情報倫理	インターネットと企業体質 (個人レベル/産業人)
10	発信情報とチェック課題	情報発信の現状と課題 (情報の収集・集約・加工・修正/費用・効果分析)
11	高度情報通信社会のモラル (1)	著作権・知的所有権の侵害 プライバシー保護問題
12	高度情報通信社会のモラル (2)	情報発信者の責任 (情報の不正取得 コンピュータ犯罪)
13	高度情報通信社会のモラル (3)	情報モラルの必要性 情報セキュリティ管理の重要性
14	高度情報通信社会のモラル (4)	同上
15	まとめ・評価	
【テキスト】 ：開講時指示		
【参考書・参考資料等】 ：開講時指示		
【学生に対する評価】 ：試験、レポート		

教科番号：6652	授業科目：情報と職業 (Information Technology and Occupation)	
(情報・機械) 工学科 (4) 年 (2) 単位 担当者： 石田尾 博夫		
【授業の到達目標】		
高校普通科において教科「情報」科目を教えるに当たり、これまでの社会の「情報化」の変遷を正確に理解し、更にそこで必要とされる職業観、勤労観について生徒を指導できる為の知識を身につける。		
【授業の概要】		
本講義では高校普通科「情報」の教諭普通免許状取得に必要とされる、教科(情報)に関する科目の一つである「情報と職業」に関し、これまで「情報化社会」がいかに進展してきたか、またこれに関しての「情報」を扱う職業の変遷を述べ、更に「情報化社会」において必要とされる職業観・勤労観について解説する。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	「情報と職業」の位置付け	教科「情報」教員免許における「情報と職業」の位置付け
2	コンピュータの歴史 (1)	コンピュータ以前の「計算機」の歴史、電子式計算機の登場
3	コンピュータの歴史 (2)	事務処理機械としてのコンピュータ利用、データベースとファイル・システム
4	コンピュータの歴史 (3)	パーソナルコンピュータの登場、ホーミングからビジネスツールへの変遷
5	コンピュータの歴史 (4)	インターネットの歴史、サーバとクライアントによる LAN の概略、TCP/IP
6	現在の情報活用の実際	情報活用能力の分類、問題解決における情報活用の実際例
7	「情報」を扱う職業 (1)	プログラマとシステムエンジニア、ゲームクリエイター、エンベデッドシステム・プログラマー
8	「情報」を扱う職業 (2)	ネットワークエンジニア、システム管理者、Webデザイナーとプランナー
9	情報産業 (1)	インターネットを用いた販売業、Webシステム構築請負業と広告代理店
10	情報産業 (2)	エンベデッドシステム開発企業、画像解析・画像処理技術の応用企業
11	情報産業 (3)	ネットワークとデータベースを用いたシステム開発企業、経営支援システム開発企業
12	情報化社会の特徴	狩猟採集社会～農業社会～工業社会～情報化社会の人々の意識変化
13	情報化社会と生涯学習	情報化社会におけるコンピテンシーの必要性、キャリア開発と生涯学習
14	「情報」と「職業」の今後	「情報化社会」のこれからと今後の「情報技術と職業」
15	総まとめ	講義した内容で重要な点を再確認し、期末試験を実施する。
【テキスト】		
情報と職業、近藤勲編著、丸善		
【参考書・参考資料等】		
情報技術と社会、大岩元 他著、放送大学教育振興会		
【学生に対する評価の方法】		
出席状況、聴講態度、試験等で総合評価する。		

教科番号：6711	授業科目：介護福祉概説（Care Welfare Outline）	
中学校教員の免許状取得のための選択科目		
（ 全 ）学科（2）年（2）単位 担当者： 切手 純孝		
科 目	教科又は教職に関する科目	
【授業の到達目標】		
介護の概念や目的、方法を概説し、障害に対する理解と高齢者の動きに対する理解を深め、障害者や高齢者に対する介護や接し方ができるようになることを目標とする。そして、介護等体験に活かせるようにする。		
【授業の概要】		
1. 障害に対する理解と高齢者の動きに対する理解を深め、それらに対する介護や接し方を学び、実践できるように体験的な学習も学ぶ。		
2. 医療保険・介護保険制度について理解を深め、それらの活用方法を学ぶ。		
【授業要旨】		
回数	題 目	授 業 内 容
1	介護等体験とは	オリエンテーション
2	介護等体験の目的と意義	介護等体験特例法と学校教育
3	介護等体験への心構え	教師志望者に介護等体験が必要な理由
4	介護等体験の具体例	介護等体験の日記の書き方、事例から学ぶ
5	介護等体験の方法 1	具体的な準備、計画、留意点
6	介護等体験の方法 2	介護等体験の具体的な手順と方法
7	特別支援学校 1	盲学校、聾学校、養護学校の概要と理解
8	特別支援学校 2	盲学校、聾学校、養護学校における体験学習の留意点
9	社会福祉施設 1	特別養護老人ホーム、養護老人ホーム等の概要と理解
10	社会福祉施設 2	特別養護老人ホーム、養護老人ホーム等における体験学習の留意点
11	介護等体験 1	車いすの操作、介助の方法
12	介護等体験 2	バリアフリー、住環境
13	老人保健法	高齢者医療制度と老人医療
14	介護保険法	介護保険制度と介護保険サービス
15	まとめ・評価	学習の総括、理解度の評価
【テキスト】		
教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 現代教師養成研究会編 大修館書店		
【参考書・参考資料等】		
社会福祉とは何か 一番ヶ瀬 康子 監修 一橋出版		
【学生に対する評価の方法】		
試験、レポート、リ spons シート等を総合的に判断して評価する。		